

# 私立大学研究ブランディング事業 令和元年度の進捗状況

学校法人番号	041005	学校法人名	朴沢学園		
大学名	仙台大学				
事業名	プロ球団とのアカデミックパートナーシップに基づく地域創生型スポーツ社会モデル形成事業				
申請タイプ	タイプA	支援期間	平成30年度～	令和2年度	
参画組織	体育学部体育学科、運動栄養学科、スポーツ情報マスメディア学科、スポーツ健康科学研究実践機構				
事業概要	スポーツ文化の活性化による地域の振興は地域創生の一つの課題である。体育スポーツ系大学である本学は、そのスポーツ科学的研究ノウハウを活用し仙台に進出したプロ3球団の事業活動を「する・みる・ささえるスポーツ」の3側面に着目して研究分析しスポーツの振興を通じた地域社会の活性化効果を解明する。それをベースに地域創生型スポーツ社会モデルを提示し地域での活用方策の導入展開を図る。				
①事業目的	本事業では、スポーツ文化のもつ3つ側面、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」に着目し、仙台市に進出したプロ3球団の事業活動を研究対象として設定し、体育スポーツ系大学である本学の研究ノウハウを活用し、地域社会の活性化に果たすプロ球団の齎すスポーツ文化の展開について、スポーツ科学的視点を踏まえた社会活性化効果の解明とその解明結果の地域での活用、それを通じてスポーツを核とした地域社会の活性化を狙いとする事業目的とする。				
②令和元年度の実施目標及び実施計画	<p><b>実施目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在仙プロスポーツ球団との共同研究メニューを拡充し、共同取り組みのイメージを定着化させる。</li> <li>・8テーマのスポーツノウハウ研究活動の推進。</li> </ul> <p><b>実施計画</b></p> <p>(1) プロスポーツ球団による本学施設・人材の活用による共同研究の推進。          本学のスポーツ施設、研究施設をプロスポーツ球団に提供、各々の専門領域スペシャリストの相互派遣による人材交流の実施。</p> <p>(2) プロスポーツ球団との共同プロモーションの実施          仙台大学デー、本学の国際交流・地域貢献事業へのプロスポーツ球団の参画、オープンキャンパスへの参画、プロスポーツ球団応援テレビ番組におけるCM提供等</p> <p>(3) 共同研究の進捗状況に関しては「仙台大学紀要」への投稿を行う。</p> <p>(4) 認知度とイメージ浸透の進捗度を測定するための定点調査を実施する。</p>				
③令和元年度の事業成果	<p>(1) プロスポーツ球団による本学施設・人材の活用による共同研究の推進。          本事業で取り組む8つの研究テーマのうちアスレティックトレーニング、ストレングス&amp;コンディショニングおよび栄養管理等の横断的な情報を組み合わせることで情報を共有するコンディション管理用アプリケーション(ONE TAP SPORTS)を活用し競技力向上サポート研究を推進している。          今年度は、学内の調査で得られてきた知見をもとに、仙台89ersへのサポート対象を絞り込み2020年-2021年シーズンの本調査に向け準備をすすめることができた。          また、スポーツ情報領域での共同研究として、情報分析および映像共有システム環境を整備し、スポーツの試合展開に関連するスポーツ情報分析に向けた実態調査を実施した。          (情報分析用ソフトウェア:Sportscode、映像共有プラットフォーム:hudl)</p> <p>本学運動栄養学科を卒業し管理栄養士資格を取得した本学職員3名がプロ球団に派遣され、公認チームスタッフとしてトッププロ選手への栄養管理・栄養指導等を担っている。</p> <p>プロスポーツ球団の現場を活用した職場体験やインターンシップも実施し、トッププロスポーツの現場を具体的に知る機会を得ることができた。          人生設計科目・キャリアプランニングⅡ(必修科目)を開講し、3日間のインターンシップ実習(職場体験学習)の機会を通じて、プロスポーツ現場の体験学習を行った(楽天:36名、ベガルタ:21名、89ERS:35名)。          キャリアプランニングⅡでインターンシップ(89ERS)に参加した学生が、発展型インターンシップ(教育課程外)にも参加した(情報分析関連:学生1名が7日間の職場体験学習を実施。広報関連:学生3名が3日間の職場体験学習を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で1日のみ実施)。</p>				

	<p>専門課程・スポーツマネジメント実習(コース必修)では、プロスポーツ球団のマネジメントの知識・技術の体験学習を実施した(楽天:2名、ベガルタ:1名、89ERS:2名)。</p> <p>発展科目「スポーツ情報戦略論(選択必修)」において、東北楽天チーム戦略室長を招聘し、受講生約80名に対して戦略室の役割や分析事例の講義を受け、プロスポーツの現場で求められる能力やスキルを知る貴重な機会を得た。</p> <p>スポーツ情報サポート研究会の勉強会に、89ERSのGMとアシスタントコーチを招聘し、研究会メンバーと男女バスケットボール部に所属する学生およびスタッフ約50名に対して、「バスケットボール競技」と「情報分析」に関する講義を行い、バスケットボール競技における勝敗要因や映像を用いたミーティング手法等の事例が紹介され知見を深めた。</p> <p>(2) プロスポーツ球団との共同プロモーションの実施 12月24日、ゼビオアリーナ仙台にてバスケットB2リーグの仙台89ERS対東京EX戦が本学の冠スポンサーゲーム(仙台大学デー)として行われた。ハーフタイムでは本学体操競技部所属で種目別ワールドカップ(W杯)シリーズ第5戦コト布斯国際(床運動)で優勝した南一輝が演技を披露した。本学が招聘したベラルーシ新体操事前合宿ホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんがプレゼンターとして仙台89ERS片岡選手へMVP賞を授与した。また、NBAで活躍している八村塁(仙台大明成高出身)の高校時代の雄姿を披露するなど共同プロモーションを実施した。</p> <p>(3) 共同研究の進捗状況に関しては「仙台大学紀要」への投稿を行う。 ① 『バスケットボール競技における大学生選手とプロ選手の情報活用の実態』 本学男女バスケットボール部と仙台89ERSの選手を対象として、情報活用に関する実態調査を実施し研究成果は、以下のとおり論文投稿し受理されている。 (2020) 仙台大学紀要, 51(2). 溝上拓志・山田恵子・村田健一・工藤千穂 ② 『「one tap sports」を利用した競技力向上サポートの研究』 令和2年度5月末提出期限の「仙台大学紀要」へ報告予定。</p>
<p>④ 令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 大学全体の運営に関する重要事項を審議する組織である学内調整会議において自己点検・評価を実施した。 研究活動は遅れてはいるものの仙台大学紀要への投稿も行われ評価できる。 しかし、成果の出ていない領域もあり今後の奮起を期待したい。</p> <p>(外部評価) 地元自治体やマスコミ関係者等の外部有識者に対して、本事業の目的と本年度の実施状況を説明し、以下の意見を得た。 最終年度となる令和2年度は、研究ブランディング事業が総合的に目標を達成できるよう具体的な施策の実行を期待したい。</p>
<p>⑤ 令和元年度の補助金の使用状況</p>	<p>プロ3球団とのアカデミックパートナー契約に伴う委託管理費、スポーツ情報分析研究推進のための機器等購入および人件費 等</p>